



北山村 議会だより

編集発行
和歌山県北山村議会
TEL 0735-49-2331
FAX 0735-49-2207



四の川奥での筏作り

(北山村観光協会Instagramより)

令和5年12月定例会が開催されました

新議員で新たなスタート 議会構成が変わりました P 2

議決事項・質疑内容 P 3

議員が村政を問う！ 一般質問 P 4～P 5

議会日誌 議員のひとりごと P 6

令和5年12月定例会

村議会新体制でスタート!

昨年12月3日に行われた北山村議会議員一般選挙の結果、新しい議員5名が決まりました。任期は令和9年12月20日までの4年です。

また、令和5年12月定例会が12月21日から開催され、議長・副議長、総務建設常任委員会の構成、一部事務組合議会等へ派遣する議員の構成などが決まり、新体制で議会がスタートしました。

新議員紹介

(議席番号順に掲載しています)

阪上 博行



山口 廣一郎



議長 藪本 英明



副議長 久保 學



久保 隆俊



以上の5名で新議会がスタートしましたので、よろしくお願いたします。

正副議長 就任あいさつ

村民の皆様には、日頃より温かいご理解とご協力賜り、心から感謝申し上げます。

このたびは、12月21日の定例会におき、副議長に余光栄、議長に藪本英明と身に着け、北山村の発展に貢献することを期して、ご期待される役割を果すこととさせていただきます。

北山村がよりよい村づくりを進めたいと考えています。

北山村の発展に、地域の幅を広げる多様な意見を聞き、村民の代表であり、意思決定する村民の代表であります。

今後とも村民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

議長 藪本英明
副議長 久保 學

議会構成が決まりましたのでご紹介いたします。

議長 藪本 英明
副議長 久保 學

総務建設常任委員会

委員長 久保 學
副委員長 久保 隆俊
委員 山口 廣一郎
委員 藪本 英明
委員 阪上 博行

議会運営委員会

委員長 山口 廣一郎
副委員長 阪上 博行
委員 久保 學
委員 久保 隆俊

新宮周辺市町村圏広域事務組合議会

藪本 英明

紀南環境衛生組合議会

山口 廣一郎
阪上 博行

後期高齢者医療広域連合議会

阪上 博行

令和5年12月定例会 ～令和5年度補正予算等を審議・可決～

本定例会は、12月21日から25日（会期5日間）まで開催されました。21日の開会日は、新議員での初議会であり、正副議長選挙、委員会等の構成を決議し、その後、議会運営委員会、議会全員協議会を開催しました。

2日目は、諸般の報告として、村長の施政方針並びに提案理由の説明が行われ、その後、上程議案として認定1件、条例改正等の議案が7件、補正予算に関する議案が6件、監査委員の選任の同意案2件が上程され、合計15件の議案が原案どおり可決承認されました。

23日（土）24日（日）の休会をはさみ、3日目の25日は一般質問が行われ、久保學議員、山口廣一郎議員、阪上博行議員がそれぞれ村行政についての質問を行いました。

●議決された条例・予算等の議案は以下のとおりです。

- 認定第8号 村道路線の廃止について
- 議案第46号 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について
- 議案第47号 北山村会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
- 議案第48号 北山村職員旅費条例の一部を改正する条例について
- 議案第49号 北山村手数料徴収条例の一部を改正する条例について
- 議案第50号 北山村国民健康保険条例の一部を改正する条例について
- 議案第51号 和歌山県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の減少及び和歌山県市町村総合事務組合規約の変更について
- 議案第52号 令和5年度北山村一般会計補正予算(第6号)について
- 議案第53号 令和5年度北山村国民健康保険特別会計補正予算(第2号)について
- 議案第54号 令和5年度北山村介護保険特別会計補正予算(第3号)について
- 議案第55号 令和5年度北山村後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)について
- 議案第56号 令和5年度北山村国民健康保険直営診療所特別会計補正予算(第2号)について
- 議案第57号 令和5年度北山村簡易水道事業会計補正予算(第2号)について
- 同意案第4号 監査委員の選任について
- 同意案第5号 監査委員の選任について

全員協議会・定例会での主な質疑内容

【質問】七色の村道市老谷線が廃止となるが、通行止めなどの看板を設置するか。看板がないと釣り客等が入ってしまう恐れがある。

【答弁】車両が侵入できないことを知らせる看板を設置します。（産業建設課長）

【質問】村外の戸籍の申請について、役場で交付請求できるのか。

【答弁】令和6年3月1日から村外に戸籍がある人でも役場で請求ができます。（住民福祉課長）

【質問】物価高騰に対する支援があるか。

【答弁】住民税非課税世帯への7万円の給付とガソリン等の購入にも使用できる商品券（一人当たり1万2千円分）の配布事業になります。使用期限は9月末までです。（地域事業課長）

※配布済み

【質問】村民会館の改修工事はどのような改修内容か。
【答弁】大集会場のクロス張替え、玄関の床の改修、廊下のひび割れ補修等です。（総務・住民福祉担当参事）



※村民会館大集会場は、これから改修工事が実施されます。じゃばらハウスや習字などの事業は大沼区民会館で行われます。

国保運営委員

山口 廣一郎
阪上 博行

介護保険計画委員

山口 廣一郎
阪上 博行

議会広報編集委員

山口 廣一郎
阪上 博行

一般質問

○村民の健康には保健師が不可欠！
 ○七色大橋の建設のためには早急な組織作りが必要！
 久保 學

【質問】 今回の村議選は厳しい選挙戦にだったが、真摯に受け止めた。頑張ればならない。頑張ればなく、しっかりしろと言われた。これまで同様に是々非々で取り組みます。

【質問】 村民の健康増進には保健師が不可欠だが、退職して不在になる保健師の確保についてどのように進めるのか。今後、保健事業をどのように体制で進めていくのか。

【答弁】 広域連携の観点から新宮市を含む管内自治体に保健師の確保と支援体制について協力をお願いしています。

今後直近の保健医療体制については、診療所の人員確保を含めた中で内川医師、看護師等の協力を得て診療所の在り方を考えているところ。 (山口村長)

【質問】 この件については、1月の委員会でも質問し、回答を求める。

【質問】 七色大橋の建設に向けて数年前から熊野市など近隣の首長に呼びかけ、村長に頑張ってもらいたい。組織を立ち上げることになりました。

奥瀬道路も50年ほど前から先人に努力していただいている。現在私たちが恩恵を受けている。七色大橋も何年後にできるか分からないが、人口の少ない地域は運動を展開しないと始まらない。首長や議員はいつ病気等で活動できなくなるか分からないので、いつでも展開できるように、組織を早くに立ち上げていただきたい。

【答弁】 熊野市にはすでに七色大橋の建設促進協議会設立の案を示しています。協議会の構成については熊野市・北山村・下北山村・上北山村の1市3村で構成したいと考えています。下北山村長・上北山村長にはすでに協議会加入の内諾を得ています。

協議会の会長は三重県との関係もあり、また、三重県道七色峡線の改良もあるようですので、熊野市長が適当ではないかと考えています。

協議会設立の時期については、令和5年度内に担当課長で詰めを行い、令和6年度内には実現するように調整を行います。 (山口村長)

監査委員任命式

新監査委員
 久保英一氏
 久保 學氏 (議選)

令和5年12月25日、役場村長室において監査委員任命式が行われました。任命式では、山口村長から「村の会計処理が適正に処理されるようお願いいたします」と挨拶がありました。代表監査委員に着任した久保英一さんは「監査委員は重責ですので、微力ですが、村の会計が基準に沿って適正に行われているか監査を行っていきたい。」と話しました。



議会の防災の知恵袋 No. 15

令和6年は元旦から、能登半島で大きな地震が起き、今もまだ復旧されず、避難所で不便な生活をおくっています。亡くなった方の多くは住宅の損壊による圧死ということで、被害拡大の一因と指摘されるのが木造住宅の低い耐震化率が上げられています。

和歌山県では、木造住宅の耐震診断、耐震改修などの補助事業がありますので、耐震改修を検討してはどうでしょうか。

また、役場でも非常食などの備蓄はありますが、公助には限界がありますので、停電や断水に備えて、懐中電灯の電池、カセットコンロ、ミネラルウォーターなど、自助としてできることは備えておきましょう。

災害は記録に残っても記憶からは消えていきます。南海トラフ地震に備え、防災面をもう一度見直し、いざというときの備えをしておきましょう。



一般質問
 ○村の存続のためには早急な住宅整備が必要！
 ○空き家の所有者とのきめ細かな連絡調整が必要！
 山口 廣一郎

【質問】人口問題・住宅問題は10年・20年先の長期計画ではなく、目先の事として考える時期にきている。将来、強制合併という不安がよぎる中、前にも聞いたが移住定住者の受け皿として竹原村営住宅の撤去後、立て替えるのか。
 また、村内の住宅建設案の検討は進んでいるのか。

【答弁】村の合併について県の見解は、県レベルではありえないということですが、国の見解は将来的には全くわかりません。

竹原の村営住宅は年明けに撤去され、その後の住宅建設については、災害時に備え、七色・竹原地区をカバーするための役場職員が常駐できる災害対応住宅の必要性があることから、その目的をもって建設したいと考えています。

新しい住宅の建設費用は3千万円程度かかり、土地造成費用なども合わせると高額な建設費が必要になります。

空き家の需要があるなら、建設費相当を有効活用し、現行の改修費等の補助制度を見直してはどうかと考えています。
 (山口村長)

【質問】村の長期計画には空き家を活用した村営住宅案が記載されており、これには全く賛成で住宅事情の改善が期待される。空き家特別措置法の改正の周知等所有者とはどこまで踏み込んだ話をしているのか。

【答弁】空き家の把握についてはこれまで地元区長の協力でおこなっており、令和6年度には空き家所有者に対する意向調査を実施します。調査の際に特定空き家特別措置法の改正、相続登記の義務化などについても周知を図ります。

空き家に関する相談については、登記の案内や危険家屋の解体補助金制度の案内をしております。今後、意向調査の結果を踏まえ、空き家を活用した村営住宅の検討を進めていきます。
 (玉置地域事業課長)

【議員からの提案】移住・定住希望者を受け入れるにあたり住宅の問題と雇用をセットで考えねばならない。村内での雇用希望となれば、移住者の生活基盤が整うよう、地元企業と事前にコンタクトを取っておく必要があると思う。

一般質問
 ○明確なスローガンを示せ！
 ○観光を前面に打ち出すことが必要！
 阪上 博行

【質問】私が平成22年に転入した時は500人だった人口は現在395名になっている。人口減少は長期総合計画にも謳っているが具体的にどのような対策進行状況か。

【答弁】私の思いは村を存続させ村を守ること。人口の推計は、10年後には小中学生38名が減少し、自然減少を加えると10年後には250人近くまで減少し、10年後の財政状況と村民を守る体制の危機感があります。高齢者対策の要である社会福祉協議会と診療所の存続、学校の存続、健康保険や、介護保険、水道ゴミ処理などインフラの維持継続など守ることが山積しています。
 (山口村長)

【議員からの提案】過去の質問にあったが、マツチング(移住者と空き家)のPRを村のホームページで見つけやすくしてはどうでしょうか。

【質問】村の予算に占めるふるさと納税の割合が大きいが、もっと筏下り以外の観光にも力を入れて、ふるさと納税と

観光振興の2本柱に育てていく必要がある。
 観光を前面に打ち出すには宿泊設備・名所・遊具が物足りないが、奥瀬道路Ⅲ期工事・高速度道路完成を見据えて日帰り観光に絞って観光メニューや設備を増やしたらどうか。

【答弁】道の駅は観光と特産品販売など、村の地域振興の総合的な位置づけにします。
 筏流しの伝統と技術が林業遺産に認定され、文化財としての存続を優先した中で観光としての活用に取り組みます。(山口村長)

【答弁】村の観光振興の一つとして3号橋を利用したアクティビティー(バンジージャンプなど)の誘致に取り組んでいますし、おくとろ公園のキャンプ場や販売所などの再整備を計画しています。
 (玉置地域事業課長)

【議員からの提案】村の存続には観光産業の見える化が必要で、明確なスローガンを打ち出し、村民に理解を求め、方向性を決める必要があると思う。

議会 日誌

11月 (霜月・しもつき)

- 1日 第2回臨時議会 (役場)
- 4日 新じゃばら加工場落成式 (七色・渡)
- 28日 村議会議員選挙告示日

12月 (師走・しわす)

- 3日 村議会議員選挙投票日
- 4日 奥瀬道路第2トンネル貫通式 (小森地内)
- 20日 村議会議員任期満了
- 21日 25日 12月定例会 (役場)

1月 (睦月・むつき)

- 3日 20歳の集い (村民会館)
- 4日 消防出初式 (下尾井グラウンド)
- 5日 県議長会 県知事への新年の挨拶 (和歌山県庁)
- 12日 総務建設常任委員会 (村民会館会議室)
- 17日 池原ダム視察 (下北山村)
- 24日 県後期高齢者医療説明会 (新宮市)

2月の予定

- 6日 7日 電源開発(株) 東京本社訪問
- 13日 総務建設常任委員会 (村民会館会議室)
- 14日 県後期高齢者医療広域議会 (和歌山市)
- 15日 16日 議長・副議長・事務局長研修会 (和歌山市)
- 20日 21日 県知事との意見交換会 (和歌山市)
- 26日 紀南環境衛生事務組合議会 (新宮市)
- 新宮周辺広域事務組合議会 (新宮市)

四季折々の村の風景

北山村で行われている日本唯一の観光筏下りですが、これは筏師さんたちによる手作りの筏です。

筏師さんたちは紀州材を用い、一本一本に受け継がれた技術を駆使して筏を製作しています。手作業で鎌を使って舟念に皮を剥ぎ取り、毎年4乗ずつ制作が行われています。

一乗あたり55本の丸太を使用し、4乗分合計220本で頑丈で安定感のある筏が作り上げられ、この特別な手作りの筏で川下りの冒険を楽しむことができます。

北山村の筏師さんの仕事は、その地域の伝統や文化を守り、訪れる人々に特別な体験を提供しています。

【北山村観光協会インスタグラムより】



四の川奥での筏製作風景

議員のつぶやき

もう45年も前のことで、メーカーで会社員をしていた頃のことです。朝礼の前、3分5分を利用して人前で何でもいいので感じたことを話す事が慣例になっていて、二か月に1度くらい皆に廻ってきます。

この話は、新卒社員が初荷応援に行った時の話です。初荷とは、メーカーから、新年早々販売店に「明けましておめでとう御座います。」と言いなから少し多い目に商品を買って貰うことです。販売店もお年玉気分です。めでたいと喜んで買ってくださる販売店もあればそうでない販売店もあります。

彼はその時のことをこう話しました「我々メーカーは販売店さんに商品を買って頂いているのだからか？ 売らしてあげているのだからか？ 又、販売店さん側からみれば買わして頂いているのだからか？ 買ってあげているのだからか？」

この後、どう続くのなかと聞いていたのですが、話はここで終りました。彼は問いかけたつもりだったでしょうが、なかなか難しい話です。

聞いていた人も一度は考えたことがあったかも知れませんが若い人がこういう話をする時、「初心を思い出します。」と言うのはこの話はある意味、上下関係を暗黙に示唆した言い方で、お互いの立場を考えると永遠に答えが出ないのではないかと、もし出たら不平等になるのではないかと、人間関係も商売もこのことと信頼関係を積み重ねて成り立つもので、年配者がこの事を言わないのは十分承知しているからではないか？

私は正月が過ぎるといつもこの事を思い出す。(現在、初荷の旗を掲げて走っている車を見たことがない。)

北山村議会議員 阪上博行